「日々の理科」（第 3622 号）　2024,-7,-7

「茅ヶ崎海岸の軽石（３）」

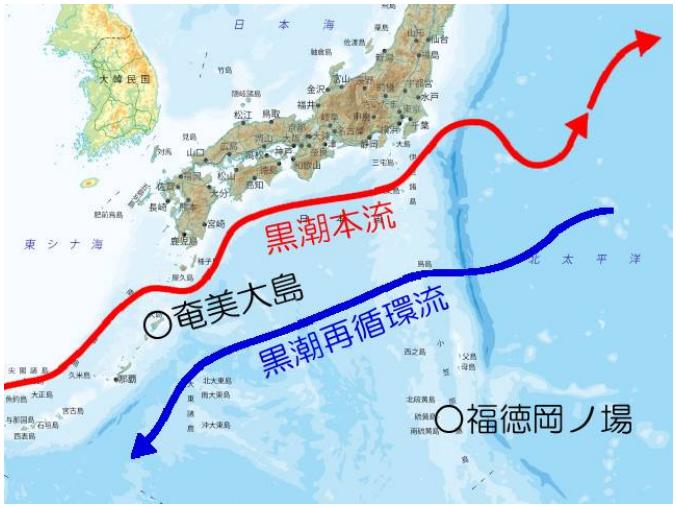
お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中　千尋　Chihiro Tanaka

2021 年に噴火した海底火山「福徳岡ノ場」の軽石は、白いものが多いのが特徴でした。

「福徳岡ノ場噴出の軽石」／鹿児島県徳之島産

福徳岡ノ場の軽石は、奄美諸島や沖縄県を始め、日本列島の広い範囲の海岸に漂着しました。中には日本海を北上、津軽海峡を横切って、東北地方の日本海側に漂着した軽石もありました。今でも時々関東の海岸で見かけますが、恐らくほとんどの軽石は海底に沈んでしまったと思われます。



福徳岡ノ場の軽石は、二つの海流によって移動したことがわかっています。黒潮の本流は、南西諸島から本州南岸を東進しています。流速は最大 4 ノット（時速 7.4km）と非常に速いのが特徴です。しかし、福徳岡ノ場の火山噴出物（軽石）は、当初黒潮とは反対側、はるか西の南大東島、奄美大島、沖縄本島に漂着していました。これは、黒潮本流のはるか南側に存在する海流によるものです。

この反対方向の流れは「黒潮再循環流」または「黒潮反流」と呼ばれていいます。流速は黒潮本流の 10 分の 1 程度の鈍足で、0.3 ノット～0.5 ノット（時速 0.6km～0.9km）程度しかない微弱な海流です。噴出地の福徳岡ノ場から奄美大島や沖縄各地まで、約 2 か月、前回の 1986 年の噴火の時は実に 4 カ月もかかったといいます。

2023 年噴出の硫黄島沖海底火山の軽石も、恐らく最初に「黒潮再循環流」に乗って沖縄へ、その後「黒潮本流」に乗って、本州南岸に漂着したのでしょう。

硫黄島の軽石は、とにかく黒っぽいものが多いのが特徴です。また、関東南岸に漂着したものは、大量のエボシガイに覆われているという事実も重要です。この 2 点が、硫黄島由来かどうかの決定打になります。

軽石やエボシガイの写真だけでは、産地（採取地）の証拠にはなりません。何とか「茅ヶ崎海岸で採取した軽石です」という証拠写真を撮りたいと思い、こんな写真を撮ってみました。早朝の海岸で妙なおっさんが腹這いになって、ゴミを撮影していたので、散歩中のご婦人が怪訝な面持ちで通り過ぎていきました。